

十勝・釧根・北網

帯広支社
☎0155(22)0401
FAX(28)2519

釧路支社
☎0154(41)3832
FAX(44)2065

北見支社
☎0157(23)4666
FAX(66)2175

網走支局
☎0152(44)2675
FAX(61)2175

26億円投じて総合的ほ場整備

【網走】オホーツク総合産業振興部は、担い手支援畑網走藻琴地区の2015年度新規採択を目指している。区画整理や客土、暗渠の総合的なほ場整備に総事業費約26億円を試算。14年度は地区調査を進め、採択されれば15年度から測量設計に入る。

オホーツク総合産業

同地区は、網走市東部の道道網走川湯線沿いで、藻琴湖から大空町境の間に広がる畑作地域。小麦・ライ麦、パレイシヨの輪作を中心とし、ビール大麦の作りも盛んだ。透水性の低い泥炭土や重粘土壌が分布しているため、湿害による生育不良や種まき・収穫の遅れが発生。丘陵地にあるほ場はくぼみや傾斜により大型機械の作業が困難なため、対策として整地による均平化や、火山性客土、暗渠による排水性改善を図る。

15年度採択目指す 担い手支援畑網走藻琴地区

【網走】旭川紋別自動車道関連工事の受注業者で組織する遠軽開発高規格工事安全連絡協議会は13日、遠軽町内の丸瀬布小付近で国道333号の延べ約200mにわたり設置された花壇

花壇にコスモスの種

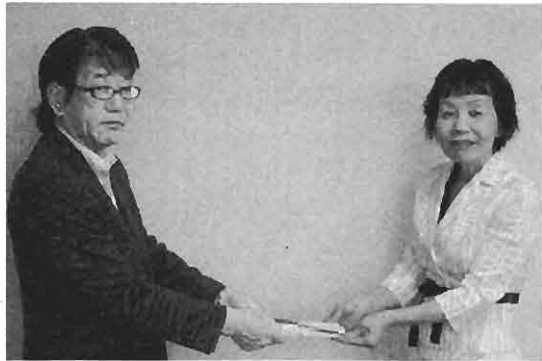
丸瀬布小付近を美化



会は13日、遠軽町内の丸瀬布小付近で国道333号の延べ約200mにわたり設置された花壇に、コスモスの種をまいた。当日はあいにくの雨だったが20人が参加。前日に耕しておいた土にスコップやクワで溝を引いた後、15センチ間隔でコスモスの種を埋めた。中垣信行会長は「いま種をまいておけば、秋に咲く。来年以降も何らかの形で地域に貢献していければ」と話していた。

交通災害遺児支援へ

帯広建設市社会福祉協元に寄付



【帯広】帯広建設業協会(萩原一利会長)は13日、帯広市社会福祉協元へ交通災害遺児への支援金を贈った。村上誠交通安全委員長が、同協議会の畑中三岐子会長らに寄付金を手渡した。同建設協会は1977年から毎年、交通安全委員会の協力を得て、交通災害遺児への支援活動を行っている。

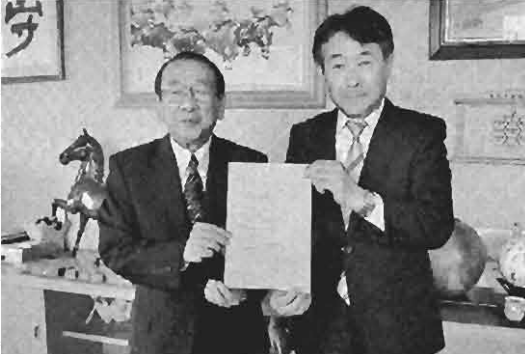
利別川で操作実演

分解組立型バックホー説明会

【帯広】北海道開発局の空輸ができるため、経路が断絶した現場での災害復旧にも対応できる利別川の利別川河川敷で開いた。同局と災害協定を結ぶ十勝管内の建設業者12社24人に対し、ヘリで運ぶバックホーの構造や分解組立型バックホーの操作実演などを行った。2004年の新潟県中越地震などで発生した土砂崩れによる天然ダムへの対応策として開発局が導入している。同社は本社がある札幌市東区でも同様の取り組みをするなど、地域に密着した企業を目指している。辻本副社長は「道内に先が5カ所あるが、それぞれの地域でできることがあれば手伝ってほしい」と話している。

忠類ナウマン公園美化で

北央道路工業 幕別町とアダプト締結



【帯広】北央道路工業(十勝営業所)は13日、忠類ナウマン公園の美化に関するアダプト

合意書を取り交わす。同町長(左)と辻本副社長と締結した。辻本副社長は「道内に先が5カ所あるが、それぞれの地域でできることがあれば手伝ってほしい」と話している。翌14日には1回目の活動として、辻本副社長が率いる社員17人が、園路の清掃や近隣排水路の点検などを行った。

7月14日に建設業経営相談会を開催

道建設業サポートセンター・網走

【網走】道建設業サポートセンターは、7月14日午後2時から網走市内のオホーツク合同庁舎で建設業経営相談会を開催。同センターの池端耕治専門相談員が経営強化や新分野進出などについて助言する。同日までに事前予約を受け付ける。中小企業診断士や建築設備士などの資格を持つ池端氏が、経営計画の策定や人材育成、人事と組織改革、現場改善、新会社設立などに関する質問に答える。

帝国データバンク釧路

06年度以降、管内での休業業が70件前後で推移し、釧路管内休業業

13年度

【釧路】釧路・根室管内の2013年度休業業は、前年度から14.9%増加し、倒産件数22件の約5倍に上っていることが、帝国データバンク釧路支店の調査で分かった。休業業が82件(12件増)、解散が26件(2件増)の内訳。業種別では小売業が34件で最も多く、建設業が22件で続いた。全高3.3m以上、重量は2万5998kg。取外しが容易なピンや継ぎ手を採用することで13ブロックに分解でき、民間へリでの空輸を可能にした。リモコンでの遠隔操作も可能で、オペレーターを2次災害から防ぐ。担当者は、遠隔操作を

効率的作業へ操縦体験

共成レンテムと情報化施工セミナー



説明を受けながらバックホーを操作した

【釧路】共成レンテム(本社・帯広)とアクテイオ(同・東京)北海道支店は12日、釧路市大森町の共成レンテムハウスで情報化施工セミナーを開いた。釧路管内の建設業関係者52人が参加し、情報化施工の知識を深め、機器搭載のフルドーザーやバックホーに試乗し、効率的な作業を提案。青木吉信第3方面主任監督官は、1日施行の改正石綿障害予防規則について話題提供。「釧路は年3〜4件、中皮腫などの労災申請がある。亡くなったたり、片肺切除など大きな障害が残る。家族への負担が大きい」と述べ、石綿を使った建物解体での対策強化徹底を要請した。阿部聡社長は「事故が起きると家族への迷惑はもう、会社存続にも影響する」と述べ、無事故無災害への徹底を呼び掛けた。芦田史枝釧路市健康推

活動方針など確認

防災防釧路ら災害防止対策会議

【釧路】建設防釧路分会(釧路建設業協会、釧路労基署)は13日、釧路キヤッスルホテルで2014年度建設災害防止対策会議を開いた。13年度の労災発生状況やパトロール結果、防災防釧路の14年度活動方針を確認した。建設防釧路からは坂野賢孝労務委員長ら、防災防釧路からは鈴木次郎署長や石川和男署長らが参加。

【釧路】共立(本社・釧路市)は13日、釧路市内のコーカがやきで安全大会を開いた。協力会社を含む75人が、2014年度安全推進スローガン「怠るな見えない死角に潜む危険、各自の自覚が身を守る」の実践を誓った。阿部聡社長は「事故が起きると家族への迷惑はもう、会社存続にも影響する」と述べ、無事故無災害への徹底を呼び掛けた。芦田史枝釧路市健康推



【釧路】共立(本社・釧路市)は13日、釧路市内のコーカがやきで安全大会を開いた。協力会社を含む75人が、2014年度安全推進スローガン「怠るな見えない死角に潜む危険、各自の自覚が身を守る」の実践を誓った。阿部聡社長は「事故が起きると家族への迷惑はもう、会社存続にも影響する」と述べ、無事故無災害への徹底を呼び掛けた。芦田史枝釧路市健康推